

令和6年度 発達支援相談事業報告 (R7年3月末時点)

1. 早期発見、早期フォロー体制の継続

① 発達支援相談事業

5つの専門相談（発達相談：心理士による相談、OT相談：作業療法士による相談、言語相談：言語聴覚士による相談、発達クリニック及び発達支援クリニック：小児科医による相談）を実施した。

（表1）～（表4）にそれぞれ相談別、年齢別の人数、相談につながった経路、最終フォロー結果を記載している。

（表1）発達支援相談利用者数

	実 人数	相談別参加人数											
		発達相談		OT相談		言語相談		発達クリニック		発達支援クリニック		相談参加 合計	
		実	延	実	延	実	延	実	延	実	延		
R4年度	315	199	276	217	365	56	106	11	8	5	9	767	
R5年度	284	181	259	183	292	60	97	7	16	11	13	677	
R6年度	259	146	195	171	270	48	72	6	8	12	12	559	

（表2）年齢別相談実人数

	0才児	1才児	2才児	3才児	4才児	5才児	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中1	中2	中3	高1	高2	高3
R4年度	5	17	45	57	58	64	29	12	8	4	5	4	4	0	1	2	0	0
R5年度	9	8	30	53	51	66	25	16	7	5	2	1	2	4	2	1	2	0
(割合)	3.2%	2.8%	10.6%	18.7%	18.0%	23.2%	8.8%	5.6%	2.5%	1.8%	0.7%	0.4%	0.7%	1.4%	0.7%	0.4%	0.7%	0.0%
	76.4%						19.7%						3.9%					
R6年度	7	19	19	37	49	59	27	14	13	7	3	0	2	0	2	0	0	1
(割合)	2.7%	7.3%	7.3%	14.3%	18.9%	22.8%	10.4%	5.4%	5.0%	2.7%	1.2%	0.0%	0.8%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.4%
	73.4%						24.7%						1.9%					

(表 3) 相談経路別実人数

								健診					
								乳児 前期	乳児 後期	1. 8 健診	2. 5 健診	3. 5 健診	
	経過者	保護者	健診	保健師	保・幼	学校	その他						
R5年度	158	31	51	3	27	3	11	5年度	0	8	5	18	20
(割合)	56%	11%	18%	1%	10%	1%	4%		0%	16%	10%	35%	39%
R6年度	147	31	39	3	27	7	5	6年度	0	6	6	12	15
(割合)	57%	12%	15%	1%	10%	3%	2%		0%	15%	15%	31%	38%

(表 4) 最終フォロー結果

	相談 継続	医療 紹介	終了	その他
R6年度	170	26	51	9
(割合)	66%	10%	20%	4%

②遊びの教室（小集団親子教室）

全22回開催。年間通しての登録者は14名で、1名転出、1名が療育につながり、最終登録者数は12名であった。14名中8名が就園児（プレ幼稚園含む）、6名が在宅児であった。

年齢の内訳は、2歳児4名、1歳児10名で、低年齢の利用が多かった。そのため、年度内に療育につながったケースは昨年度より少なかった（4名→1名）。

最終登録者12名中2名が療育につながり、その2名を除く10名中7名が、R7年度の参加継続を希望された。

③のびのび教室（ペアレントトレーニング：保護者が子どもの行動の見方を学ぶ、または、「安心感の輪 子育てプログラム」：愛着理論に基づいて親子関係を培う）

発達支援相談利用者や療育利用者に案内し実施。9名の参加があった。5名が修了（うち1名は「安心感の輪」）し、残りの4名はR7年度に渡って実施していく。

受講後のフォロー会は、「安心感の輪 子育てプログラム」の修了者1名に行い、ペアレントトレーニングの方は、個人的に面談依頼が2名あった。

2. 保育所・幼稚園巡回相談事業

園巡回では、まだ相談事業につながっていないケースが、主に対象児として挙がっている。

ミーティングでは、その後のフォローについても検討され、相談事業を紹介することもある。教育相談（学校教育課）と協働での相談事業が1回あった。普段から園巡回や相談事業で対象児の様子を知っているセンタースタッフの視点と、学校現場からの視点で、より深く評価をすることにつながった。

運動プログラムについては、若手保育士のクラスを対象として依頼があった園に実施している。

親子運動プログラムについては、園からの依頼で、乳幼児期に大切な発達につながる遊び・関わりの講話と実技を、親子に対して実施している。

スキルアップ講座は、加配保育士や若手保育士を対象に、発達に関する講話をしたり、日頃の悩みを気軽に相談したりできる座談会として実施している。

(表5)園巡回相談数

	合計		運動 プログラム	親子運動 プログラム	スキル アップ
	回数	児延数			
R5年度	33	139	1	8	7
R6年度	30	127	2	8	4

3. 就学後の支援体制の継続

放課後児童クラブ、学校巡回、検査結果連携を実施（表7）。今年度も夏休み中に多くの小学生がOT相談を受けており、園部小学校のケース数が多く、学校へ出向いて連携を行った。保護者からの依頼で学校の参観に行くケースが今年度もあった。

支援級の担任からの依頼で2回訪問し、学級支援を行った。

(表6) 就学後支援数 （新入生連携・参観以外の学童期の支援数）

	学校数(延)	児童数(延)	クラブ数(延)	児童数(延)
R5年度	18	34	6	33
R6年度	36	96	6	21

4. 移行期支援の継続

5歳児まで相談事業を利用していた新1年生のケースにおいて、就学の節目にも支援が継続し、学校と連携して見守っていく体制があることを保護者へ伝え、小学校連携及び入学後授業参観を実施した。放課後児童クラブへも事前連携及び参観訪問を実施している。高校

への連携ケースもあった。(表7)。

支援ファイル及び移行支援シートの配布も継続して行った(表8～9)。

年長児の就学前後の支援を見据えて、つくし園との協議を行った。

関係機関が共通認識をしながら児童発達支援を行うことができた。

(表7)学童期への連携数 (R6年度新1年生の学校・放課後児童クラブへの連携・参観)

入学前の連携(学校・学童)

	学校数	児童数	クラブ数	児童数
R5年度	8	62	7	35
R6年度	6	44	6	42

入学後の参観(学校・学童)

	学校数	児童数	クラブ数	児童数
R5年度	7	59	7	33
R6年度	5	57	7	28

(表8)支援ファイル配布数

	中学生	小学生	4歳児	5歳児	計
R5年度	0	1	0	19	20
R6年度	0	4	3	22	29

(表9)移行支援シート活用数

	保育所 →小学校	小学校 →中学校	中学校 →高校	合計
R5年度	18	15	16	49
R6年度	22	18	12	52

5. 研修の実施(講師関係)

- ・こども家庭課(保健師・相談員)研修会(8月30日)
- ・ファミリーサポート研修会(12月4日)
- ・つくし園職員研修会(12月12日)
- ・主任児童委員研修会、施設見学・講話(1月31日)
- ・自立支援協議会、発達支援事業について(3月10日)

6. アンケートの実施

①発達支援相談終了者アンケート

令和5年度に全ての発達支援相談事業について相談終了となっている保護者を対象に、よりニーズに応じた相談事業の実施を目指すとともに、必要なケースに適切な支援を行えるようにするため、アンケートを実施した。

101名に案内を送付し、回答があったのは33名で、回答率は32.7%であった。回答者の約94%が相談を受けて「大変良かった」「良かった」と回答し、現在困り事や心配な事があると回答した人が13名(39%)、その内4名から再相談の希望があった。再相談希望者に関しては、園や学校とも連携しながら全ての保護者に連絡していく。

②事業評価に対する関係機関アンケート

センターが南丹市の中で発達支援・子育て支援の役割を担う施設として、関係機関からどのようなことが求められ、また達成できているのかを確認し、これからの事業に生かせるように、関係機関に向けてのアンケートを実施した。南丹市内の園や学校、療育機関など、センターと連携したことがある全ての所属先の職員を対象とし、167名から回答を得た。

センターの機能を生かすことで、園・学校と保護者、園と学校など、今を支える横のつながりと、これからを支える縦のつながりの両方を深めることに寄与できていると考えられた。また、課題として、経験の浅い職員向けにセンター事業の広報をすることや、園巡回および個別相談の予約がより取りやすくなることなどが求められており、R7年度に工夫して対策していく。

7. その他（関係機関との連携・協働）

- ・こども家庭課が実施する5歳児健診の内容について、企画に関わった（会議2回、待合遊びコーナーの試作）。
- ・要保護児童対策地域協議会のケース会議に参加し、センターからの見立てや支援の方法について協働した。
- ・教育支援委員会の教育相談や臨時判定に参加。小学校や保育所、幼稚園と5回参加し、6ケースの相談に関わった。
- ・発達障害児はぐくみ事業への参加（南丹保健所主催）。
- ・南丹圏域障害児総合相談ネットワーク（ほっとネット）発達障害支援部会への参加。